

桑野造船株式会社 〒520-0243 大津市堅田 1-21-2 TEL: 077-573-8001 FAX: 077-573-8002
 URL: <http://www.k-boat.co.jp> E-mail: kuwano@k-boat.co.jp

日本ナショナル・コーチのジャンニ氏セミナーを聞く機会があった。勿論、北京のメダルを目指しているだけにアクティブな提案が多くあり、参考になった。ここではオリンピックを目指す人達の話だったが、ジュニアのローイングもいろいろ新しい交流や取り組みがはじまっているようだ。この他にもシニアやアダプティブ・ローイングでも活発な動きが出てきたのは嬉しいことだ。もともとローイングは過酷なスポーツであることが魅力でもあるが、その中での楽しみとコミュニティの重要性を我々は忘れていたかもしれない。世界の仲間と連携しながらカテゴリーごとの新しいローイングの価値を創り出せるかが正念場だ。【古川】

未来に向かって進化

- お客さまの役にたつ存在になる -

* 総てに挑戦

仕事の総てを見直し、新しく創る

* 存在価値の追求

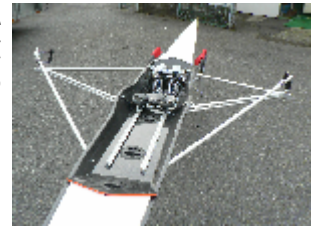
国内メーカーとしての価値を高める

* スピードアップ

生産、開発、サービスにスピードを加える

A1 Takeda Special 完成! 【香川】

昨年の全日本で優勝した武田スペシャルをさらに進化させた2号が完成した。今回の艇のメインテーマは「剛性分布の均等化」である。ヒントとなったのはBBGとエンパッハの構造の特徴の類似性である。両艇ともUD(注)を除く構造的縦部材の省略が顕著で、船殻のみで全体的な剛性を出しているところが特徴的である。不連続感を感じさせない理由はこの辺りにあると推測した。今回の私達の艇は1号艇と同じくフルカーボンなのでエンパッハほど大胆にはなれないが、ミドルデッキの部分の縦部材を極力少なくして、代わりに横隔壁を2つ増やして橋桁方式でレールとデッキを支えるという方法を採用した。おそらく縦方向の不連続感はあまり感じなくなったのではないと思う。補強は末端処理を斜め切りにしてフェードアウトさせた。切れ目をなるべく感じさせないようにするためである。乾舷はとにかく途切れをなくすようにした。BBGは乾舷が低く、シアも不連続な形をしているにもかかわらず、一本筋の通った乗り心地を体現しているとすれば、今回の私達の高い乾舷と連続的フォルムを持った艇に人はどう感じるのだろうかという期待があった。乾舷を増やした分、重量的に不利になったが、重量を気にして下手に他の部材を抜いて柔らかいと言われるのが嫌なので今回は剛性を優先させた。重量と剛性の関係にジレンマを感じている。最後に、武田氏に試漕をしてもらった。その感想はある程度予想できる範囲であったが、「1号はスタートで出られると思い実際出られたが、2号ではスタートで出られると思う。1号とは別物になった。」という言葉聞いたときは素直にうれしかった。()縦方向のみに強度を発揮する炭素繊維



良いボートコースは選手の声で その5 【岩佐】

<操舵標識板について> 舵手無艇のレースが多い中、無視されがちな操舵標識板。舵手無艇にとっては、これがないとまっすぐに進めません。もちろん、これがあっても見ないで突き進めば、コース侵害となります。是非是非、標識板をいい位置、いい高さにつけていただきたい。選手の皆さんは、しっかり標識板を見てスタートして下さい。艇は一本一本、多少でも方向が変わります。一本一本、なおしつつ良いレースを…。さて、コース施設担当のプロとして操舵標識について少しお話をします。操舵標識板は、2カ所が普通なのですが、立地条件等でやむなく1カ所しかつけられない所もあります。その時はスタートラインからマイナス方向にブイをつけることによって、又はステッキボートを目安にすることによって漕ぐことが出来ます。操舵標識板なしの場合はどうでしょう。その時は、近くの景色と遠くの景色を見るか、近くの景色とステッキボートを見て進むかです。いずれにしても最初のブイまで上手くまっすぐに漕いでいくことが必要です。コース侵害やブイに引っかかったりしないことです。標識板なしでステッキボート有の場合には、1つ方法があるのですが、ここではお教えできませんので少し考えてみてください。この標識板には設置方法が色々あります。吊下式、固定式、浮体式。当社におきましては、あらゆる立地条件に可能な方法にて対応させていただきます。標識板のご用命は当社へご一報下さい。



お知らせ

*メンテナンス講習会が終了しました!

2/23(金)~25(日)にかけてメンテナンス講習会を実施しました。各地から10名の方に参加していただき、サンプルピースを使って練習した後、実際の艇を使った修理も実習していただきました。最終日には、サンプルピースによる修理コンテストを行い、東レの小藤さんが見事チャンピオンに選ばれました! 皆様の来年度のご参加をお待ちしています。

*ボート水域調査 Web入力フォームを設置しました!

Vol.38で調査協力をお願いをした水域調査ですが、頂いた情報を順次ホームページへアップしています。このたび、Webから入力できるフォームも設置しました。水域の基本的な情報のみでもかまいませんので、より多くの方のご協力をお願いいたします。 <http://www.k-boat.co.jp/site/index.htm>

BOAT TIMESの配信停止をご希望される方は、お手数ですがFAX (077-573-8002)又はE-Mail (kuwano@k-boat.co.jp)で当社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。

お手数ですがボート関係者へお渡しをお願いいたします。